

スペイン最古の闘牛場がホテルとしてオープン！

La plaza de toros más antigua de España, ahora también es hotel



シ ヲダ・リアルから西に
およそ100 km、スペイン
人ならば誰もが社会科の
授業で習ったことがあると
いう「水銀鉱山の町・アル
マデン100」にある闘牛場が、
ホテルとしてオープンし話
題になっている。

これまで、1785年に完成したロンダのものが「現存するスペイン最古の闘牛場」と言われてきたが、アルマデンの闘牛場はその33年も前（1752年）に造られた。1970年台から廃墟になっていたものを、町役場が買い取り完全修復して、2003年6月にホテルとしてオープンした。2004年の7月からは現役の闘牛場としても機能している。

この闘牛場が建てられた目的は2つ。水銀中毒や伝染病患者のための病院建設資金を集めるためと、坑夫の住居を確保するため。普通の闘牛場なら座席になっている部分が、観戦用のバルコニーと住まいに充てられている。よって円形ではなく世にも珍しい「六角形」の闘牛場となった。その形と旧さからナショナル・モニュメントにも指定されている。

驚いたことに、その作業の全ては坑夫自らが担ったという。だから壁は凸凹で梁は傾いていたりするのだが、それがまた独特の魅力を醸し出している。「この味を生かすために、ホテルには1枚の絵も掛けていません」とは、オーナーのミゲル・アンヘル氏の談。

また、このホテルが饗する郷土料理と創作料理の融合は、筆舌に尽くし難いことも是非つけ加えておきたい。

